

夕刊

いわき民報

いわき市平字田町53ノ1
いわき民報社
○ 振替口座(都3山4026)
本社 0246(2)1656
支社 0246(2)3560
支店 0246(2)2380
支店 02466(2)2903

新味の
魚漁

正木勤勿来漁業協同組合会長の話
にほつこ。せごせい遊び程度の量
個人の考え方、石巻港をめぐる(一時前後など)は夕食一食分か
法的な規制を要するといふを認識し、(いこ)なり大西にむじかねいと
おじいが農業生産、『漁業を面的に探るのだけがよせない』と、ひたすら市民の意識に訴えている。

遊び程度は大目に

資源をみんなで大切に

大にぎわいの勿来海岸

漁業侵害とカクカク

漁協組が海賊版に警告

コタマ貝異常繁殖

勿来海岸では三月から異常繁殖したコタマ貝がハマクリに似て美味、しかも、手洗いも扱り易いとあって土・日曜は數千箱も扱っている。これがエスカレー、最近は違反の漁具使用はおもづく、ジープに懸垂網をつけた乱獲・販賣する疑惑まで現れ、勿来漁業組合(正木勤組合長、百三十人)は漁業権の侵害だとカクカク、県水産事務所に泣きついたが農業生産、『漁業を面的に探るのだけがよせない』と、ひたすら市民の意識に訴えている。

二年前から採れ出す

古巣の話によれば、四十五年前、さんざれ、鶴巣漁業組合が組織、業についたほど。それが化學工場の進出や鉄道の運営汚水など、さしも六月一日からの緊急措置、三

海底が泥沼におおねじこばくな

った。あきらめられたコタマ貝が

出始めたのは四十七年ぶり、勿

来漁業組合は四十七、四十八年度

と海底の本格的な藻類が開始、こ

れぞれの報道はわざわざがつて

海水浴場、帯は松川浦にも負けな

い潮干狩り風景となった。家庭的

なレジャーのわざわざがつたが

頭の良いのがこれを商業化して始

めた。

●シユの晴れ間にボッカリ

と咲き競うヤメ。山や薄紫色

の花が、周囲の緑や水面に映え

て美しく。その傍には黄

色のハナシ「カ」が、池をなで

て泳ぎわざわざ風にゆらい

で…。

○…この、いわき市平字田城

跡の丹後沿岸には、五十歳

ほどばかりのお咲き始めたア

ヤメがひと列咲き並んで、画面

では二十四日が田の「タケノ」

句句だ。

【美しく咲き競うヤメ】

さじ下の稚貝が採りはじめていた
【上】稚貝が採りはじめていた
【下】稚貝が採りはじめていた

市民は楽しんでいるが…】

【上】稚貝が採りはじめていた
【下】稚貝が採りはじめていた

リレー栽培 軌道へ乗る

高冷の差塩へ一万三千鉢

県は地域に即した花き栽培を奨励するため、今年初の試みとして鉢植えのシクラメンを平地

部の高冷地を結ぶリレー方式で栽培管理を行ってきたが、いわき市の農家が実施したシクラメンの栽培が県内の第一歩となりました。近年、花きの需要は増える一方で、成長産業として大きな伸びが期待されているとされていますが、農家から成績が注目されています。

第1号はいわき市山田町(農業)で、最初に、平地部に花の咲く最後の肥料を撒いた。近々、花きの需要は増える一方で、成長産業として大きな伸びが期待されていますが、農家から成績が注目されています。

山田一郎さん(55歳)は、農業で栽培種をし、鉢物の生産的な需要に入るところまでの十二月末から始まり、現在は約1万方尺の栽培地で、販路を広げています。また、販路の状態で夏季の六月から九月末まで高冷地の三和町(農業)の農家に栽培委託、鉢植えの肥料を販売するなど、シクラメンの

【高冷の差塩へ運搬】
シクラメン

月未から、受け入れ便の三和町営

塩宇川下、農業振興課の二方にて

運び終わり、現在は約1万方尺の

シートハウスで販賣されています。

現在は約1万方尺の

栽培地で、販賣を始めました。

この分野では、栽培地で生産を

始めた農家で、栽培地で生産を

始めた農家で、栽培地で生産

